

●がん医療部会

開催回数	平成24年 8月 2日（木）17:00～19:00 11月 5日（月）17:00～19:00 平成25年 3月 11日（月）17:00～19:00 計 3回
構成委員	県民：1名 がん診療連携拠点病院（医師）：7名 がん診療連携支援病院（医師）：1名 がん診療医療機関（医師）：1名 計 10名
平成24年度 の取組	1. 第2期奈良県がん対策推進計画【がん医療（がん医療の提供）／がん登録分野】の検討 2. 化学療法の充実に向けての検討 化学療法分科会の開催【H24.5.17、H25.1.30：2回】 3. 放射線治療の充実に向けての検討 奈良県放射線治療地域連携協議会の開催【H25.3 メール会議】 4. 県民に分かりやすい診療情報の提供に向けての検討 5. がん登録部会の開催【H24.5.18：1回】 地域がん登録の届出対象の検討【H24.8～がん医療部会に統合】
成 果	○第2期奈良県がん対策推進計画（案）の作成 ○化学療法の充実に向けて、今後の取組について検討 ①がん診療連携拠点病院での公開カンファレンス 症例を共有・検討することで問題点を明らかにし、医療の質の底上げに繋げる。 また、拠点病院間で行うことで、顔の見える関係づくりや人材交流にも繋がり、 治療における連携に寄与する。（がん診療連携協議会に開催を依頼する。） ②マニュアルの検討 県内がん診療連携拠点病院及び関連施設におけるがん化学療法の技術向上と 均てん化を目指す。 ○放射線治療の充実に向けての検討 放射線治療地域連携協議会で「県内2病院のリニアック等更新に伴う放射線 治療制限への対応」「放射線治療専門医の不足への対応」について協議し、 部会に報告。 ○県民に分かりやすい診療情報の提供については、現況報告のデータの基準の統一 が必要であることが課題であることを共通理解。 ○地域がん登録届出実績 77施設 27,432件（H25.2末現在） 2009、2010年症例 9施設 15,394件→入力済み 9,684件（63%）
残された 課 題	○化学療法の充実に向けて、下記の実現に向けて継続協議 ①がん診療連携拠点病院での公開カンファレンス ②マニュアルの検討 ○化学療法（薬物療法）専門医、放射線治療専門医の不足への対応が度々議論 されているが、具体的な対策ができていない。部会としての意見を出しても、 問題が大きく、何年経っても県のレベルでの有効な計画に結び付いていない。 ○2病院のリニアック等の更新に伴う、放射線治療の制限への対応（別紙参照） ○診療情報の提供に向けて、項目（治療実績、5年生存率等）の検討
平成25年度 計 画	○評価指標の検討、患者・家族満足度調査の調査項目の検討 ○がん診療連携病院での公開カンファレンス→実現に向けて、がん診療連携協議 会（奈良県立医科大学が事務局）での検討を依頼 ○化学療法（薬物療法）専門医、放射線治療専門医の不足への具体的対応につ いての検討（県レベルでの対応について検証） ○2病院のリニアック等の更新に伴う、放射線治療の制限への対応について継 続検討（具体的な対策案の作成が必要） ○診療情報の提供に向け、現況報告のデータの基準の統一、公表項目の継続検討 ○地域がん登録の登録作業の継続

第2回 奈良県放射線治療地域連携協議会（メール会議）議事録

平成25年3月4日（月）～3月6日（水）に、第2回奈良県放射線治療地域連携協議会をメール会議の形で開催した。会議の進行、議題、協議等の概要は以下のとおりである。

1) メール会議の開始：平成25年3月4日（午前0時50分）に、同協議会の会員全員に以下のようなメールを事務局から配信して、「天理よろづ相談所病院、奈良県立医科大学附属病院のリニアック等更新に伴う放射線治療制限への対応について」の協議をおこなった。

2) 常勤の放射線治療医がいる施設すべてから回答があり、さらにメールで協議をおこなった。

3) 協議内容の概要は、以下の4点である。

①常勤の放射線治療医のいるすべての施設（ただし、更新施設は当然限定的）から、それぞれの施設で実施可能な範囲の治療については、2病院のリニアック更新に伴う放射線治療制限への対応について「協力可能」との回答を得た。

②通常の放射線治療はいずれの施設でも可能との回答であったが、強度変調放射線治療、定位放射線照射等の高精度治療についてもそれなりの協力が可能という回答は、近大奈良病院、高井病院等に限られていた。実際にどの程度まで実施可能かといった詳細についてはさらに検討が必要である。

③骨髄移植時等に実施される全身照射については、現在、実施可能な3病院中2病院において、更新時に制限されることになるが、これを他の1病院（近大奈良）においてカバーすることはかなり厳しいことが判明した。県内の血液内科に周知を徹底するとともに、必要なら県外への依頼も検討する必要がある。（専門医が不足している本県の現状では、十分な対応は困難である。）

④更新に伴う患者制限が具体化する前に、さらに検討が必要である。

（文責：奈良県放射線治療地域連携協議会 事務局 奈良県立医科大学附属病院 長谷川正俊）

●緩和ケア・在宅医療部会

開催回数	平成24年7月25日（水）16:30～19:00 10月31日（水）16:30～19:15 平成25年3月13日（水）16:30～18:50 計 3回
構成委員	県民：1名 がん診療連携拠点病院（医師）：2名 在宅医：3名 がん診療連携拠点病院（看護師）：1名 関係機関（薬剤師会、訪問看護ステーション協議会、医療社会事業協会、介護支援専門員協会）：4名 計11名
平成24年度の取組	1. 第2期奈良県がん対策推進計画【がん医療（緩和ケア）分野】の検討 2. 「がん患者さんのための患者必携」「がん患者への緩和ケア導入のための主治医必携ガイド」について、がん診療連携拠点病院（4病院）で医療従事者を対象に説明会の開催 *説明会未実施の2病院については、部会より冊子作成の目的、使用方法についてメッセージを配布 3. 「がん患者さんのための患者必携」「がん患者への緩和ケア導入のための主治医必携ガイド」の掲載情報の更新、増刷 4. がんタウンミーティング（5回）、がんシンポジウム（1回）の実施
成 果	○第2期奈良県がん対策推進計画（案）の作成 ○「患者必携」「主治医必携ガイド」の説明会【4病院 参加者：163名】 ○「患者必携」（12,000部）：がん診療連携拠点病院、県内病院、薬局（450カ所）、訪問看護ステーション等へ配布 「主治医必携ガイド」（2,000部）：がん診療連携拠点病院、県内病院等へ配布 ○がんタウンミーティング、がんシンポジウムの実施【計6回、参加者数：439名、がん相談：9名】
残された課題	○在宅医療資源の底上げ、増加に向けた方策の検討 ○継続して、県民への緩和ケアの普及啓発
平成25年度計画	○評価指標の検討、患者・家族満足度調査の調査項目の検討 ○緩和ケアの普及啓発 ・「患者必携」の改訂版の検討 ・ポータルサイトの掲載内容の検討 ○在宅医療資源の底上げ、増加に向けた方策の検討 奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンターが在宅緩和ケア医と連携して、医療圏内の在宅医、かかりつけ医等を対象に、在宅緩和ケア地域連携研修をモデル的に実施し、他のがん診療連携拠点病院へ広げる（研修プログラムは、当部会委員で検討）

<平成24年度 奈良県がんタウンミーティング・シンポジウム実績報告>

日時・場所	内 容	参加者
平成24年9月30日(日) 9:30～12:00 奈良商工会議所 4階 中ホール (奈良市)	奈良県がんタウンミーティング【第1回】 ～もしもあなたや家族ががんになったら～ ●講演1 「もしがんになったらあなたはどこで治療を受けますか？」 高橋 正裕 医師 (日本在宅ホスピス緩和ケアネットワーク 副理事長) ●講演2 「もしがんになったら、あなたは人生の最期をどこで迎えますか？」 森井 正智 医師 (ホームホスピス ひばりクリニック院長) がん相談(無料)	・参加者:44名 ・がん相談:2名
平成24年10月21日(日) 14:00～16:00 奈良県新公会堂 レクリエーションホール (奈良市)	奈良県がんシンポジウム ～今こそ創ろう 地域ネットワーク～ ●基調講演 「在宅医療 介護あんしん 2012」 山岸 暁美 氏 (厚生労働省 医政局指導課 在宅医療推進室) ●シンポジウム 「今こそ創ろう 地域ネットワーク」 <座長> 森井 正智 医師 (日本ホスピス緩和ケアネットワーク 理事長) <パネリスト> 山岸暁美氏(厚生労働省 医政局指導課 在宅医療推進室) 四宮敏章氏(国保中央病院 緩和ケアホーム医長) 加藤久和氏(加藤クリニック 院長) 扶藺由起氏(ホームホスピスひばりクリニック 看護師長) 松原操氏(県立奈良病院がん性疼痛看護認定看護師) 浦嶋偉晃氏(県民 奈良県のホスピスとがん医療をすすめる会) ＊がん相談(無料) ＊がん情報展示 (在宅酸素、ウィッグ、福祉用具等の展示)	・参加者:93名 ・がん相談:3名

日時・場所	内 容	参加者
平成24年11月25日(日) 9:30～11:30 下市観光文化センター 研修室 (下市町)	奈良県がんタウンミーティング【第2回】 ～もしもあなたや家族ががんになったら～ ●講演1 「もしがんになったらあなたはどこで治療を受け ますか？」 四宮 敏章 医師 (国保中央病院 ホスピス緩和ケア科長) ●講演2 「もしがんになったら、あなたは人生の最期をどこで 迎えますか？」 森井 正智 医師 (ホームホスピスひばりクリニック 院長) ＊がん相談(無料)	・参加者:35名 ・がん相談:1名
平成24年12月16日(日) 13:30～16:00 天理市文化センター 4階視聴覚室 (天理市)	奈良県がんタウンミーティング【第3回】 ～もしもあなたや家族ががんになったら～ ●講演1 「もしがんになったら？」 久須美 房子 医師 (天理よろづ相談所病院) ●講演2 「もしがんになったら、あなたは人生の最期をどこで 迎えますか？」 宮城 信行 医師 (宮城医院 院長) ＊がん相談(無料)	・参加者:38名 ・がん相談:0名
平成25年1月27日(日) 13:30～15:30 橿原文化会館 小ホール (橿原市)	奈良県がんタウンミーティング【第4回】 ～もしもあなたや家族ががんになったら～ ●講演1 「もしがんになったらあなたはどこで治療を受け ますか？」 山崎 正晴 医師 (奈良県立医科大学附属病院) ●講演2 「在宅における訪問看護ステーションの役割」 石原 祐佳 看護師 (橿原訪問看護ステーション やわらぎの郷 所長) ●講演3 「もしがんになったら、あなたは人生の最期をどこで 迎えますか？」 河田 安浩 医師 (ちゅうわ往診クリニック 院長) ＊がん相談(無料)	・参加者:180名 ・がん相談:1名

日時・場所	内 容	参加者
<予定> 平成25年2月24日(日) 9:30～11:30 生駒市コミュニティセンター 4階 会議室(生駒市)	奈良県がんタウンミーティング【第5回】 ～もしもあなたや家族ががんになったら～ ●講演1 「もしがんになったらあなたはどこで治療を受け ますか？」 高橋 正裕 医師 (日本在宅ホスピス緩和ケアネットワーク 副理事長) ●講演2 「もしがんになったら、あなたは人生の最期をどこで 迎えますか？」 森井 正智 医師 (ホームホスピス ひばりクリニック院長) *がん相談(無料) ●講演3 「在宅における訪問看護ステーションの役割」 石原 祐佳 看護師 (橿原訪問看護ステーション やわらぎの郷 所長)	・参加者:49名 ・がん相談:2名

(H25.2.7 現在)

	開催回数	参加者	がん相談
奈良県がんシンポジウム	1回	93名	3名
奈良県がんタウンミーティング	5回	346名	6名
計	6回	439名	9名

◆奈良県がんシンポジウム

<シンポジウム>



<がん情報展示>



●地域医療部会

開催回数	平成24年7月31日（火）17:00～19:00 10月24日（水）17:00～19:50 平成25年2月27日（水）17:30～19:50 計 3回
構成委員	県民：1名 がん診療連携拠点病院 地域連携担当：6名 在宅医：2名 関係機関（訪問看護ステーション、薬剤師会、保健所）：3名 看護師（病院、診療所）：2名 計14名
平成24年度の取組	1. 第2期奈良県がん対策推進計画【がん医療（地域連携）分野】の検討 2. がん在宅医療機能一覧を奈良県HPへ掲載。【H24.6】 3. 4大がん（胃・肺・肝臓・大腸）6種類の地域連携クリティカルパス「私のカルテ」の増刷。乳がん、大腸がん（3種類）の「私のカルテ」を作成。【3月現在：5大がん10種類】 4. 診断から看取りまで切れ目のない連携体制の整備に向けて、情報共有のための連携ツールの検討。 5. 医療関係者を対象に地域連携パスについての研修会に協力【H25.3 県がん診療連携拠点病院（奈良医大）主催】
成 果	○第2期奈良県がん対策推進計画（案）の作成 ○がん在宅医療機能一覧を奈良県HPへ掲載【アクセス数：243件（H24.6～H25.2）】 ○5大がん10種類の「私のカルテ」の作成、がん診療連携拠点病院等（6カ所）に配布、県内病院（67カ所）に配布、周知（予定） ○県内の地域連携クリティカルパス運用数【16件（H24.6～7 2カ月間）】 ○奈良県内施設基準の届出受理数の増加【178件（H25.2現在）】
残された課題	○「私のカルテ」について、医療機関や県民へ更なる普及啓発（奈良県HPの周知） ○診断から看取りまで、情報共有のための連携ツールの検討 ○地域連携クリティカルパスの運用数の増加
平成25年度計画	○評価指標の検討、患者・家族満足度調査の調査項目の検討 ○5大がん以外のがん種（例えば、前立腺がん）の「私のカルテ」の検討 ○地域連携クリティカルパスの運用促進のため、コーディネーター研修会の実施 ○連携ツールについて検討を継続（連携ツールの作成、試用、修正）

◆がん在宅医療機能一覧（診療所・訪問看護ステーション・薬局）

●奈良県ホームページ <http://www.pref.nara.jp/27099.htm>

奈良県

トップページ | 県の紹介・観光 | 暮らし・環境 | 教育・人権・交流 | 保健・医療・福祉 | しごと・産業 | 県政情報 | 県の組織

がん在宅医療機能一覧（診療所・訪問看護ステーション・薬局）

平成23年度に実施した調査結果に基づき、県内診療所、訪問看護ステーション、薬局の
がん在宅医療機能一覧を掲載しています。

※がん患者さんの診療や対応ができるとご回答いただいた施設について掲載しております。
詳細につきましては、各施設へお問い合わせください。

がん在宅医療機能 一覧

- 診療所
 - 調査概要
 - 結果概要
 - 一覧【奈良 東和 西和 中和 南和】
- 訪問看護ステーション
 - 調査概要
 - 結果概要
 - 一覧【奈良 東和 西和 中和 南和】
- 薬局
 - 調査概要
 - 結果概要
 - 一覧【奈良 東和 西和 中和 南和】

※一覧は、下記医療圏毎に掲載しています。

奈良：奈良市
東和：天理市 桜井市 宇陀市 山添村 川西町 三宅町 田原本町 曾根村 御杖村
西和：大和郡山形市 生駒市 平群町 三郷町 斑鳩町 安堵町 上牧町 王寺町 河合町
中和：大和高田市 橿原市 御所市 香芝市 葛城市 高取町 明日香村 広陵町
南和：五條市 吉野町 大淀町 下市町 黒滝村 天川村 野迫川村 十津川村 下北山村
上北山村 川上村 東吉野村

H24年6月1日～奈良県ホームページへ掲載

アクセス数：243件（～H25年2月末）

●地域連携クリティカルパス 5大がん10種類（H25年3月現在）

●県内の地域連携クリティカルパス運用数

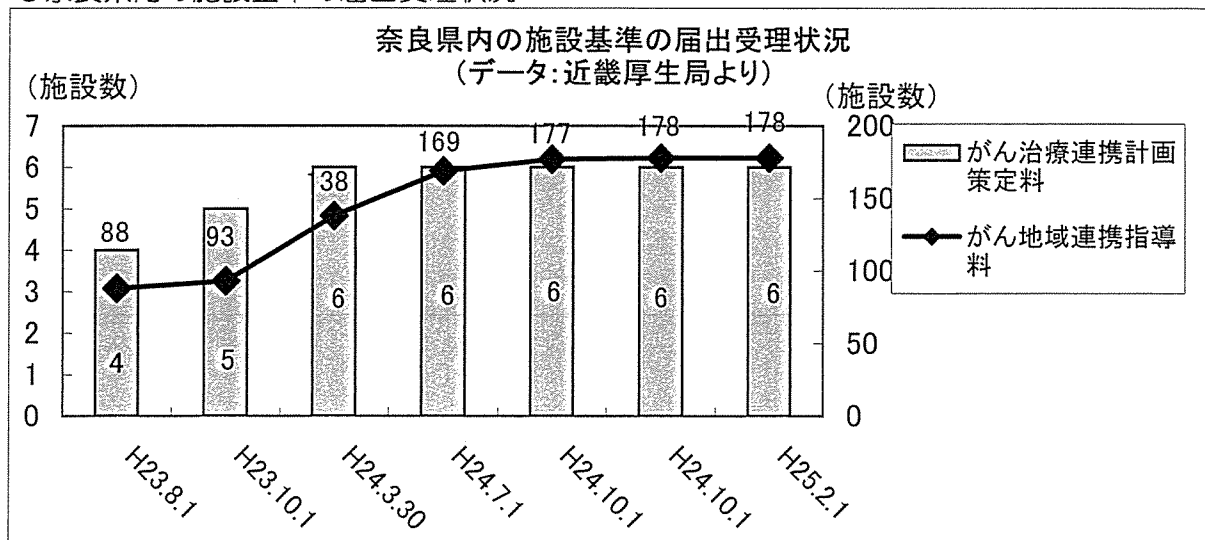
◆がん診療連携拠点病院等における地域連携の状況【H24.6.1～7.31】

	奈良県立医科 大学附属病院	県立奈良病院	天理よろづ 相談所病院	近畿大学医学 部奈良病院	市立奈良病院	国保中央病院	合計
地域連携クリティカルパス の総数	(11) 11	(11) 11	(6) 7	(6) 5	(7) 7	(5) 5	(46) 46
登録医療機関数	(109) 108	(436) 496	(7) 13	(9) 312	(20) 36	(0) 123	(581) 1,088
適応した患者数	(1) 3	(8) 1	(0) 3	(1) 8	(1) 1	(0) 0	(11) 16
病病連携・病診連携の 受け入れ患者数	(384) 156	(80) 145	(135) 279	(31) 368	(133) 128	(37) 40	(800) 1,116

上段（）：H23年度現況報告

下段：H24年度現況報告

●奈良県内の施設基準の届出受理状況



●相談支援・情報提供部会

開催回数	平成24年 6月28日（木）14:00～16:30 10月19日（金）14:00～16:30 平成25年 3月 8日（金）14:00～16:30 計 3回
構成委員	県民：1名 がん相談支援医療関係：2名 関係機関（薬剤師会、市町村看護職員協議会、奈良労働局、保健所）：4名 計 7名
平成24年度の取組	1. 第2期奈良県がん対策推進計画【がん患者等への支援（相談支援及び情報提供／がん患者の就労を含めた支援）分野】の検討 2. 「がん相談のためのサポートガイド」の作成 3. 「がん相談支援センター・患者サロン一覧」のチラシの作成、配布 4. 南和医療圏での患者サロン、相談窓口の設置 5. ピアサポーターフォローアップ研修会 6. がん相談支援センター利用状況調査の実施 7. ポータルサイトの項目検討
成 果	○第2期奈良県がん対策推進計画（案）の作成 ○「がん相談のためのサポートガイド」の作成（1,000部） ○「がん相談支援センター・患者サロン一覧」のチラシの作成（40,000枚）、関係機関へ配布 ○吉野保健所で、患者サロン（3回）、相談窓口（2回）実施 ○ピアサポーターフォローアップ研修会 【H24.9.6、9.14：2日間、参加者数：延べ34名】 ○がん相談支援センター利用状況調査【H25.1.22～2.15】
残された課題	○「がん相談のためのサポートガイド」の配布、普及啓発 ○がん相談支援センター・患者サロンの周知 ○「就労を含めた社会的問題」についての具体的方策の検討 ○がん相談支援センター利用状況調査の実施時期、方法について検討 ○がん情報の提供について検討
平成25年度計画	○評価指標の検討、患者・家族満足度調査の調査項目の検討 ○県内医療機関でがん相談に携わる者を対象の研修会（予定）に協力【H25.6 がん診療連携協議会相談支援分科会 主催】 「がん相談のためのサポートガイド」の説明、周知 ○「就労を含めた社会的問題」についての実態把握 ○がん相談支援センター利用状況調査の実施時期、方法の検討 ○「がん相談支援センター、患者サロン一覧」のチラシの作成、配布 ○がん情報の提供のためのポータルサイトの検討、患者向け療養ガイドの検討 ○ピアサポーター養成研修会の開催

＜奈良県がん患者サロン＞

○ 目 的

奈良県がん対策推進計画（平成 21 年 11 月策定）において「すべての拠点病院で患者サロンを設置」するとともに、奈良県がん対策推進アクションプラン（平成 23 年 3 月策定）においては、「保健所にピアサポーターによるピアサロンの設置」を目標として掲げていることを踏まえ、がん患者やその家族が、相互に交流、情報交換することを目的に奈良県がん患者サロンを実施する。

○ 対 象

県内に居住するがん患者及びその家族等

○ 内 容

対象者は自由参加とし、参加者相互の交流、情報交換を行う。

◆平成24年度実績

日時・場所	内 容	参加者
平成24年6月22日（金） 13:30～15:30 吉野保健所 大会議室 （吉野郡下市町）	●がんサロンの約束事の確認 ●自己紹介 ●フリートーク	・参加者:4名 患者・家族:4名 ・スタッフ:7名 県立医科大学附属病院相談員 1名 保健所 4名 保健予防課 2名
平成24年10月26日（金） 13:30～16:00 吉野保健所 大会議室 （吉野郡下市町）	●講演会「がん治療と食事」 ●がんサロンの約束事の確認 ●自己紹介 ●フリートーク	●講演会 参加者:22名 患者・家族:18名 医療機関等: 4名 ●サロン 参加者:16名 患者・家族:12名 医療機関等: 4名 - スタッフ:7名 県立医科大学附属病院相談員 1名 県立医科大学附属病院栄養士:1名 保健所 5名
<予定> 平成25年 3月22日（金） 13:30～15:30 吉野保健所 大会議室 （吉野郡下市町）	●がんサロンの約束事の確認 ●自己紹介 ●フリートーク	

○当日の様子



◆啓発用チラシ

患者サロンよしの
を南和地域で開設いたします

場 所 吉野保健所 2階大会議室
(下市町新住15-3)
近鉄下市口駅下車 徒歩13分

日 時 平成24年 6月22日(金)
午後1時30分から3時30分

がんの治療に関連して悩みや不安がある患者さんやご家族の方が話せる、経験者の話を聴く場として気軽にご利用ください。

午後1時30分から3時30分の間で、ご都合のいい時間にご参加ください。事前申し込み不要、無料です。

お願い
・お飲み物などの準備はしてありません。
各自でご準備ください。
・参加に際しての約束事があります、ご協力ください。
(約束事はサロン内に掲示してあります)

患者サロンよしの
「がん治療と食事」
講演会

がんの治療中は、抗がん剤や放射線治療などの影響で、食欲が低下する傾向があり、多くの方が悩んでいます。
この度、がん治療中の食事について、専門医による講演会を開催しますので、ぜひ参加ください。

日 時 平成24年10月26日(金)
13:30~15:30

場 所 吉野保健所 2階大会議室

内 容 ①講演「がん治療と食事」
講師 県立医科大学附属病院
管理栄養士 山口 千影氏

②交流会 がん患者、家族同士で情報交換
申込み: 事前に氏名、参加人数等を記入後、
FAXまたは郵送で下記へ申し込んでください。
先着50人。定員をこえた場合のみ抽選。

＜あて先＞吉野保健所
〒638-0045 下市町新住15-3
FAX: 0747-52-7259

【ご注意】 要報告会時は、中止する場合がありますので、
下記へお問い合わせください。

がん患者サロンよしの
を開催します!!

がんサロンは、がん患者や患者家族同士が悩みや不安を語り合うことができ、同じ体験をした仲間が集うことができる場です。ぜひ、お気軽にお越しください。

日 時 3月22日(金)13:30~15:30

場 所 吉野保健所 2階 大会議室

対 象 県内に居住されているがん患者、
その家族

参加費 無料

申し込み FAXまたは郵送で住所、氏名、
電話番号、参加人数を記入後、
下記へ申し込んでください。
先着30名。定員をこえた場合のみ抽選。

＜あて先＞吉野保健所
〒638-0045 下市町新住15-3
FAX: 0747-52-7259

【ご注意】 要報告会時は、中止する場合がありますので、
下記へお問い合わせください。
吉野保健所健康増進課 TEL0747-52-0551

＜奈良県がん相談窓口＞

○目 的

奈良県がん対策推進計画（平成21年11月策定）において「拠点病院以外に県民が相談できる相談窓口を利便性のいい場所に開設」とするとともに、「拠点病院のない南和医療圏にも相談窓口の設置」を目標としていることを踏まえ、本県におけるがん医療に関する相談支援体制を強化し、患者及び家族の療養生活の質の維持向上を図ることを目的に奈良県がん相談窓口を実施する。

○対 象

県内に居住するがん患者及びその家族等

◆24年度実績

日時・場所	相談員	相談者数	相談内容・対応
平成24年7月24日(火) 13:30~15:00 吉野保健所 小会議室 (吉野郡下市町)	奈良県立医科大学 附属病院 がん看護専門看護師	・1ケース 患者・家族 計2名	イレッサ内服による副作用と主治 医との関係 →(対応) 闘病体験の傾聴及び承認
平成24年12月4日(火) 13:30~16:15 吉野保健所 小会議室 (吉野郡下市町)	梅岡 京子氏	・2ケース 患者本人 計2名	消化器がんの普段の食事等につい て →(対応) 日常生活での実践を肯定 し、今後も前向きに生活できるよう 助言

＜評価＞

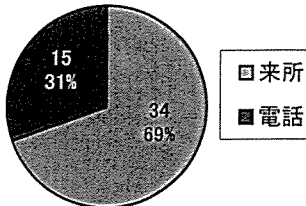
- ・ サロンや講演会の参加者の中から、個別の問題を持つ方を、個別相談へつなげ、療養生活の不安の軽減をはかることができた。
- ・ また、個別の問題が深刻なケースは、受診されている病院のがん相談支援センターへの相談へつなぐことができた。

がん相談支援センター利用状況調査【利用者用】結果概要

- 目的：がん診療連携拠点病院等におけるがん相談支援センターの利用状況の把握と、今後の相談窓口の充実のための対策に活用する。
- 調査対象：がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院のがん相談支援センターを利用したがん患者及びその家族等で、調査の協力に同意を得られた者。
- 調査方法：面接の場合→自記式または聞き取り、電話の場合→聞き取り
- 調査期間：2013年1月22日～2月15日
- 回答状況：49件

●相談方法について

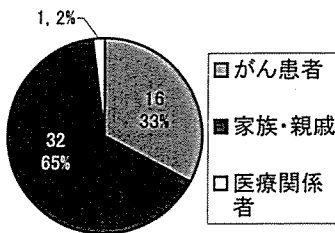
相談件数(相談方法別)
【H25.1.22～H25.2.15】



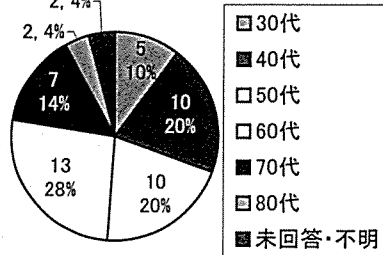
平成25年1月22日～2月15日の4週間に実施したアンケート回答数は49件、うち来所が34件(69%)、電話15件(31%)であった。
また、回答者の状況としては、家族・親戚が32件(65%)、患者本人が16件(33%)であった。年代別では、30代～50代が50%を占めていた。

●回答者について

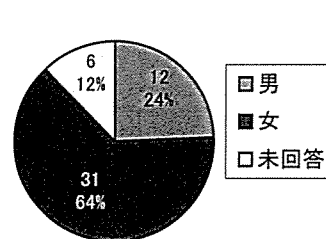
回答者の状況



回答者の年代

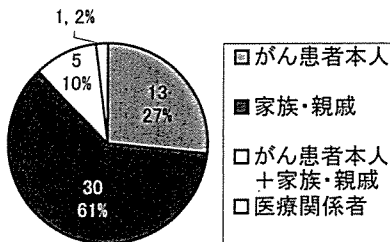


回答者の性別



●相談者について

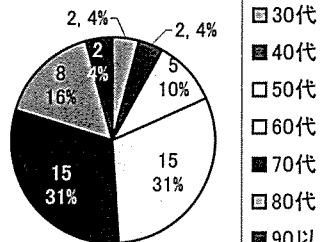
相談者について



相談者は、家族・親戚が30人(61%)を占め、次いで、患者本人が13人(27%)であった。

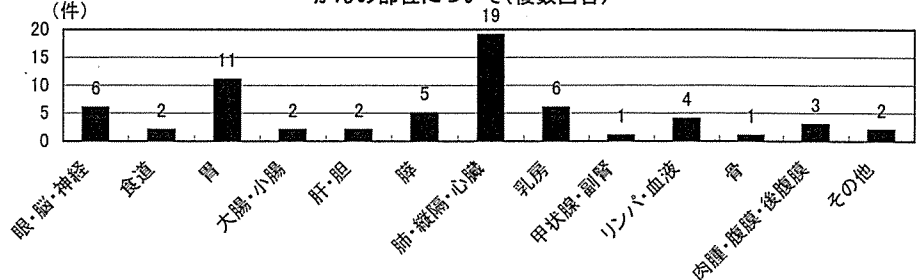
●がん患者の状況

がん患者の年代



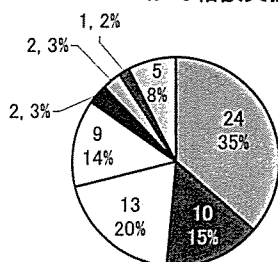
がん患者の状況は、年代では、30代～50代が9人(18%)、60代以上が40人(82%)であった。部位については、『肺・縦隔・心臓』が19人と最も多く、次いで、『胃』11人、『乳房』『眼・脳・神経』の6人となっていた。49名の内、8名は部位が複数であった。

がんの部位について(複数回答)



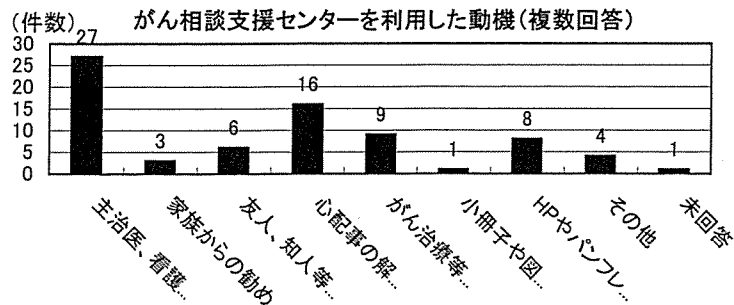
●がん相談支援センターを知った経緯

がん相談支援センターを知った経緯



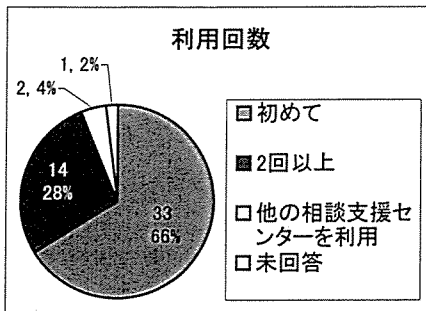
がん相談支援センターを知った経緯は、『主治医・看護師から聞いた』が最も多く24件(35%)、次いで、『パンフレット・チラシを見た』13件(20%)、『家族・知人・友人から聞いた』10件(15%)であった。その他としては、県民だより、MSWから等であった。

●がん相談支援センターを利用した動機



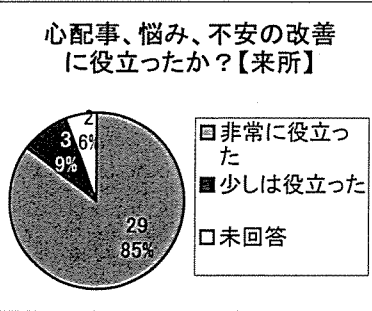
がん相談支援センターを利用した動機としては、『主治医・看護師の勧め』『家族の勧め』『友人・知人の勧め』が36件で、相談行動のきっかけとしては、他人からの助言が大きな役割を占めていると思われる。また、『心配事の解決』が16件で、がん相談支援センターを利用することでがん治療に対する不安の軽減を期待していることが窺える。

●がん相談支援センターの利用回数



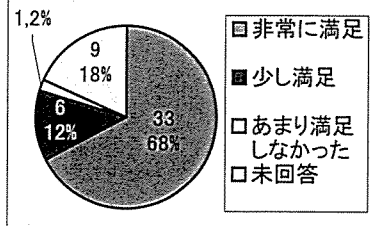
がん相談支援センターの利用回数は、『初めて』33件(66%)、『2回目以上』が14件(28%)であった。2回以上の利用では、2～5回11件、6回2件、24回1件で、1回のみの相談だけでなく、継続相談のケースもあった。

●心配事等の改善について



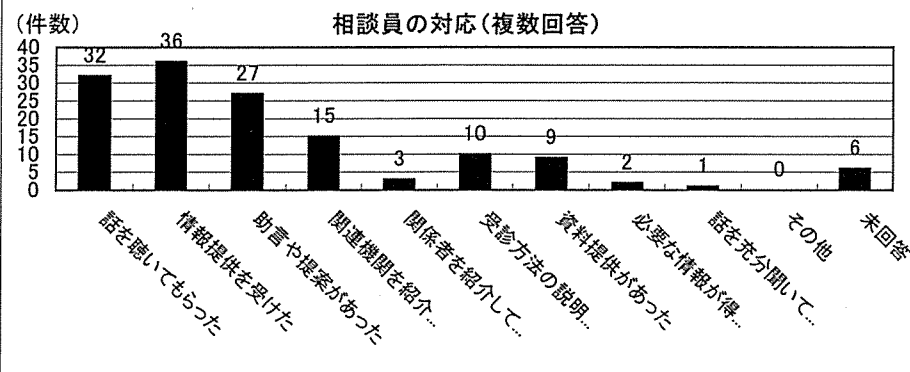
心配事、悩み、不安の改善に役立ったかについては、非常に役立った29件(85%)、少しは役立った3件(9%)と、相談することで心配事の改善に役立っていることが分かった。

「がんに関する情報」の満足度【全体】



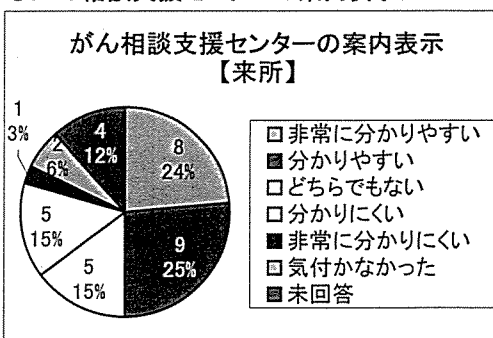
相談支援センターで得た「がんに関する情報の満足度」は、非常に満足、少し満足が39件(80%)、余り満足しなかったが1件(2%)であった。ご意見として『もう少しお医者さんと近い立場でお話できたら良かった』と記載されており、相談支援センターの機能として、医師の相談を期待するものであった。

●相談員の対応について



相談員の対応については、『情報提供を受けた』が36件、『話を聞いてもらった』32件、『助言や提案があった』が27件となっている。

●がん相談支援センターの案内表示について



がん相談支援センターの案内表示について、来所相談された34名について集計を行った。『非常に分かりやすい』『分かりやすい』が17件(49%)、『分かりにくい』『非常に分かりにくい』『気づかなかった』が8件(24%)であった。ご意見としては、『センターのあるフロアだけでなく、各階エレベーターを降りた全面の壁に掲示する』『センターをもう少し分かりやすい方法(場所・案内)を考えて欲しい』など。

●がん相談窓口等に対するご意見、ご要望

- ①センターのあるフロアだけでなく、例えば各階エレベーターを降りた前面の壁に掲示するとかを工夫すればもっと利用しやすいのではないだろうか。
- ②こういう窓口があるということをもっと知らせて欲しい。
- ③誰に相談すればよいのかと悩んでいたが、このような場があってホッとした。サロンに行く勇気はない。がん相談にはこれからもかかりたい。
- ④病気のことについて話を聞いてもらい楽になった。また頑張ってみようと思う。前向きになれる。
- ⑤もう少しお医者さんと近い立場でお話できたらよかった。
- ⑥自分一人で考えていた。色々はっきりしてきた。
- ⑦センターをもう少しわかりやすい方法(場所・案内)を考えてほしい。
- ⑧こういう相談の場所があったのはうれしい

● たばこ対策部会（奈良県たばこ対策推進委員会）

開催回数	2回（平成24年7月31日、平成24年12月20日）
構成委員	専門医1名 医師会1名 歯科医師会1名 薬剤師会1名 ボランティア1名 計5名
平成24年度の取組	1. 禁煙マラソン推進事業（インターネットを使った禁煙希望者への禁煙支援）県民向け禁煙マラソン案内構築（奈良県の健康情報サイト「すこやかネットなら」から県民が無料で参加できる） 2. 県内市町村庁舎、議会棟、公用車の禁煙実施状況調査と公表 建物内禁煙未実施市町村へのヒアリング（保健所） 3. 世界禁煙デー大型商業施設等での普及啓発キャンペーン（県内4箇所）、高校や大学祭における普及啓発 4. 働き盛り世代への禁煙支援（事業所等への出前講座） 5. 子どもの頃からの生活習慣病予防を目的としたDVD教材（23年度作成）の配布 6. 学校と連携した未成年者喫煙防止教育 7. 奈良県内の大学および短期大学における受動喫煙対策に関する実態調査 8. 成人の喫煙率、禁煙希望者、妊婦の喫煙状況等の調査実施 9. 健康なら協力店による禁煙推進（施設内禁煙） 10. （仮称）なら健康長寿基本計画、第2期がん対策推進計画の喫煙分野の検討
成 果	○奈良県在住、在勤者が無料で禁煙マラソンに登録できるようになった。 現登録者89名 ○施設内禁煙実施（本庁舎）市町村の増加 26か所（H22）→32か所（H24） ○普及啓発キャンペーン等参加者 約7000人、医師会、歯科医師会、薬剤師会、ボランティア等関係団体との連携による実施 ○子どもの頃からの生活習慣病予防を目的としたDVD教材県内小学校5、6全学級、市町村保健センター配布（1000枚） ○健康なら協力店による禁煙推進→不完全分煙の廃止 75か所登録（H25.2月現在） ○成人の喫煙率 男性39.3%、女性7.7%（H19）→男性24.4%、女性5.3%（H23） ○妊婦の喫煙率 6.7%（H17）→5.7%（H23）
残された課題	○未成年者、妊産婦の喫煙防止と禁煙支援 ○若い女性への喫煙防止対策、普及啓発、大学と連携した普及啓発や敷地内禁煙化 ○全市町村庁舎の施設内禁煙化 ○受動喫煙防止対策 ○普及啓発による効果の把握（たばこと健康に関する正しい知識をもつ人の割合）
平成25年度計画	○世界禁煙デーキャンペーン（関係団体と協働で実施） ○COPDについての普及啓発（認知度を上げる） ○若い女性をターゲットにした喫煙防止、禁煙の普及啓発（チラシ、ポスターの作成・配布、学校祭等での普及啓発） ○禁煙支援アドバイザー（市町村保健師等）の育成研修会 ○禁煙マラソンの継続実施、マタニティーコースの追加、PR強化 ○禁煙支援医療機関、禁煙支援薬局の情報提供 ○学校と連携した喫煙防止教育 ○未成年者禁煙相談窓口の設置 ○妊産婦禁煙支援指導マニュアルの作成・配布（市町村、産科医療機関） ○妊産婦禁煙支援研修会（産科医、助産師、市町村保健師対象） ○市町村庁舎の禁煙実施状況調査と公表 ○「健康なら協力店」推進 ○職場における禁煙推進に関する研修会 ○奈良県たばこ対策推進委員会実施（年2回予定）

●がん検診部会（奈良県がん予防対策推進委員会）

開催回数	受診率向上部会 2回（平成24年9月6日・10月26日） 精度管理部会 1回（平成24年10月29日）
構成委員	受診率向上部会：専門医1名 医師会1名 事業者1名 保険者1名 市町村2名 ボランティア1名 患者会1名 計9名 精度管理部会：専門医7名 医師会1名 検診機関1名 市町村1名 計10名
平成24年度 の取組	1. 奈良県がん予防対策推進委員会の開催 ○第2期奈良県がん対策推進計画の受診率目標値の設定及び受診率向上に向けた取組の検討 ○市町村がん検診実施状況及びプロセス指標値の把握検討（平成23年度分） ○市町村がん検診精度管理調査の実施及び評価 （市町村・集団検診機関・県の調査） ○医療機関からのがん検診精密検査機関からの結果フィードバックの検討 2. 胃がん検診従事者研修会の開催（集団検診機関及び市町村委託個別医療機関、市町村担当職員対象） 3. 「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の設立 4. 10月10日「奈良県がんと向き合う日」キャンペーンの開催（平成24年度がん検診を受けよう奈良県民大会の開催） 5. 市町村がん検診受診に関する知事表彰（橿原市・下北山村） 6. 子宮頸がん予防リーフレットの配布（中学1年生～高校1年生女子生徒等） 7. 奈良県がん検診応援団会議の開催（2回／年）締結・登録10企業
成 果	○平成24年10月10日奈良県がん検診推進県民会議の設立総会開催 （県内114機関参加 約700人が参加） ○奈良県がん検診受診率(40～69歳)※人間ドック含む 国民生活基礎調査より 胃28.4%,大腸26.3%,肺20.5%,子宮21.2%,乳21.0%（H19年）→ 胃29.3%,大腸24.7%,肺20.2%,子宮35.7%(過去2年),乳35.7% (過去2年)（H22年） ○奈良県市町村がん検診受診率 地域保健・健康増進事業報告より 胃6.3%,大腸16.4%,肺4.5%,子宮14.5%,乳14.3%（H20年）→ 胃6.0%,大腸17.1%,肺6.3%,子宮20.5%,乳20.7%（H23年） ○24年度市町村がん検診精度管理調査結果D評価減少、B評価増加 ○奈良県がん検診実施要領・奈良県市町村がん検診精度管理要領の改正 ○市町村がん検診登録精密医療機関にがん検診精密検査結果報告依頼文を通知 ○胃がん検診従事者講習会の開催（4ヶ所）105名が参加
残された 課 題	○受診率向上にむけた新たな取組 ○検診対象者への均等な受診勧奨・再勧奨の実施 ○3次医療機関からのがん検診精密検査結果のフィードバック ○個別検診機関に対する精度管理調査の実施（医師会の協力が必要） ○精度管理調査結果に基づく検診機関への指導
平成25年度 計 画	○「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催 ○がん予防対策推進委員養成講座 ○奈良県がん検診応援団会議の開催 ○職域でのがん検診意識調査の実施 ○子宮頸がん予防リーフレットの配布 ○がん検診個別受診勧奨・再勧奨モデル事業 ○がん検診従事者講習会開催 ○肺がん検診読影医養成のための症例検討会 ○市町村がん検診精度管理調査実施 ○奈良県がん予防対策推進委員会（精度管理部会・受診率向上部会）の開催

●がん教育

開催回数	平成25年1月16日（水）13:00～14:00 2月 8日（金）10:30～11:30 2月26日（火）13:30～14:45 3月15日（金）13:30～15:00 計 4回
関係課	学校教育課 保健体育課 健康づくり推進課 保健予防課
経 過	1. 第2期がん対策推進計画でのがん教育について ・計画を策定するにあたり、がん教育について、学校現場の現状や現在配布されている副読本の内容等、個別に話し合いをしていた。 ・単課で検討するのではなく、関係課での情報交換から実施する必要がある、ワーキングを立ち上げた。 ・第1回では第2期計画のがん教育について確認し、ワーキングの役割について説明を行った。→各課との情報交換や勉強会、必要教材の検討、県民への情報提供方法の検討を行う。 2. がん教育についてのねらい、目的の設定 ・2回目は、担当課長での会議を行い、がん教育におけるねらいや目的について合意を得、本県が目指す「健康寿命日本一」に向け、がん予防、がんの早期発見を中心としたがん教育を進めることとした。 具体的なすすめ方については、担当者で検討することとした。 3. 学校でのがん教育のすすめ方について検討 ・第3回ワーキングで、具体的に教育を実施できる対象学年や授業内容について話し合った。 ・第4回では2つの意見が提案された。 （意見1） 保健の授業の生活習慣病予防にがんが含まれるので、そこに冊子等の教材を加え授業に取り組んでもらうように進める。 （意見2） 全校で一斉に取り組むより、モデル校で実施し、まわりに浸透させていくことが現実的ではないか。その場合、誰が、がん教育の担い手となるか。
平成25年度 計 画	○子どもたちに対してがんについての正しい理解を促すため、具体的なすすめ方や評価方法について関係課で連携し、検討を進める。